

**製品名: LPCAT2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13389**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	50kDa

**抗原情報**

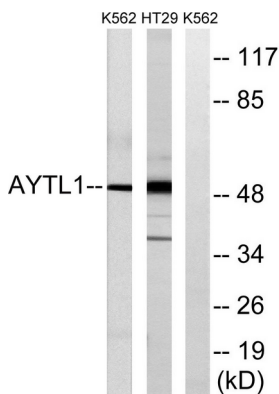
遺伝子名	LPCAT2 LPCAT2; AYTL1; Lysophosphatidylcholine acyltransferase 2; LPC acyltransferase 2; LPCAT-2;
別名	LysoPC acyltransferase 2; 1-acylglycerophosphocholine O-acyltransferase; 1-alkylglycerophosphocholine O-acetyltransferase; Acetyl-CoA:lyso-platelet-ac
遺伝子 ID	54947.0
SwissProt ID	Q7L5N7
免疫原	抗血清はヒト LPCAT2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 321-370

**背景**

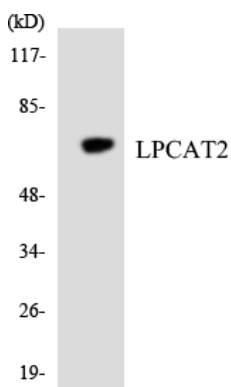
この遺伝子は、リゾリン脂質アシルトランスフェラーゼファミリーのメンバーをコードしています。コードされている酵素は、1-O-アルキル-sn-グリセロ-3-ホスホコリンから血小板活性化因子 (1-O-アルキル-2-アセチル-sn-グリセロ-3-ホスホコリン) の生合成を触媒すること、およびアラキドニル CoA とリゾホスファチジルコリンからグリセロリン脂質前駆体の合成を触媒するという2つの機能を果たすと考えられます。コードされているタンパク質は、炎症細胞における膜生合成および血小板活性化因子の産生に関与していると考えられます。酵素は小胞体およびゴルジ体に局在する可能性があります。 [RefSeq 提供、2009年2月]、触媒活性: アセチル CoA + 1-アルキル-sn-グリセロ-3-ホスホコリン = CoA + 2-アセチル-1-アルキル-sn-グリセロ-3-ホスホコリン。触媒活性: アシル CoA + 1-アシル-sn-グリセロ-3-ホスホコリン = CoA + 1,2-ジアシル-sn-グリセロ-3-ホスホコリン。ドメイン: HXXXXD モチーフはアシルトランスフェラーゼ活性に必須である。酵素調節: アセチルトランスフェラーゼ活性は、リポ多糖 (LPS) による急性炎症刺激後に増加する。アシルトランスフェラーゼ活性は変化しない。機能: アシルトランスフェラーゼ活性とアセチルトランスフェラーゼ活性の両方を有する。活性はカルシウム依存性である。血小板活性化因子 (PAF) の生合成に関与し、PAF の前駆体である 1-O-アルキル-sn-グリセロ-3-ホスホコリン (リゾ PAF) から 1-O-アルキル-2-アセチル-sn-グリセロ-3-ホスホコリン (PAF) への変換を触媒する。また、リゾ PAF を細胞膜の主要成分であり PAF の前駆体でもある 1-アルキル-ホスファチジルコリン (PC) に変換する。安静時にはアシルトランスフェラーゼ活性が優先される。急性炎症刺激を受けると、アセチルトランスフェラーゼ活性が亢進し、PAF の合成が増加する。経路: 脂質代謝; リン脂質代謝。類似性: 1-アシル-sn-グリセロール-3-リン酸アシルトランスフェラーゼファミリーに属する。類似性: 2つの EF ハンドドメインを含む。

## 研究分野

## 画像データ



LPCAT2 抗体を用いた K562 細胞および HT-29 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



LPCAT2 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。

